

# “インターンシップ&グローバルキャリア” プログラム in ジャカルタ

■ 学生数	<b>32, 810名(11, 451名)</b>
・学部生	<b>30, 462名(10, 646名)</b>
・大学院生	<b>1, 737名(583名)</b>
・専門職大学院生	<b>611名(222名)</b>

■ 教員数 **2, 899名【専任902名】**

■ 職員数 **903名【専任597名】**

■ 設置学部 **10学部**

**法学部・商学部・政治経済学部・文学部・理工学部・農学部・経営学部・  
情報コミュニケーション学部・国際日本学部・総合数理学部**

■ 設置研究科

**大学院11研究科・専門職大学院4研究科**

**※人数は5月1日現在の数字で、( )内は女子の数で内数**

## チームでの競争力

母国語が“英語”でない者，価値観が異なるもの同士が1つの**チーム**として競争。

## 視野の広がり

現地のOBOGやビジネスパーソンとの交流会を通して，海外で働くことの**リアル**を感じることができる。

## プレゼンテーション能力

協力企業の現地“社長”に対してプレゼンテーション。**企業も本気かつシビアなフィードバック&順位付け。**

## リーダーシップ

チームでの活動を通して，目標に向けてどのようにチームを率いるか。**チームにおける自分の役割を考えながら行動する力**を身に着ける。

## Mission:

# インドネシアで1番お客様に選ばれ、愛される航空会社にせよ!

### 日本航空ジャカルタ支店

●インターンシップ:リサーチ・マーケティングPROJECT



ミッション  **JAPAN AIRLINES**

## インドネシアで1番お客様に選ばれ、愛される航空会社にせよ!

市場	▶新卒初任給3万円程度 ▶物価は日本の1/2程度(日雑品は日本同価格)
現状	▶当地マーケットの低価格志向を反映し、競合キャリアとの価格競争がますます激化する昨今の環境下、いかに品質で勝負できるか常に腐心し、マーケット開拓に取り組んでいる。 ▶おもてなしの心ときめ細やかな感性に代表される当社の個性を伸ばし、究めていくことによって、世界で一番お客様に選ばれ、愛される航空会社を目指したい。
手法	▶「日本・インドネシア」学生7人程度チームで、リサーチ・マーケティング調査を実施。
提案	▶マーケティング戦略を、「JAPAN AIRLINES Jakarta Branch」幹部社員に対してプレゼンテーション。

### インターンシップ:リサーチ・マーケティングPROJECTの流れ

[明治大学・University of Indonesia 混成チームで取り組む!]

①マーケット・市場を視察@日本

②アンケートを考える@日本

③混成チームで  
コミュニケーションを取る@JKT

④アンケート調査実施@JKT

⑤マーケティング戦略を  
プレゼンテーションする@JKT



### インターンシップ:課題提供

### 日本航空ジャカルタ支店

1962年初就航以来、日系キャリアとしてもっとも長い歴史を刻むインドネシアにおいて、2014年に増便を果たし、2便化(日)運航を実現。増加傾向にある訪日インバウンド需要に支えられ、ご搭乗客数は着実に増えているものの、レジャー客体を中心のため、北米路線を含む当社のグローバルネットワークを生かした、当地の非日系ビジネスマーケットの獲得が今後の課題。



### インターンシップ:インドネシア人学生パートナー

### University of Indonesia:インドネシア国“最高学府”

University of Indonesiaインドネシア人学生と国(人種、言語、文化)を超え、共に考え、共に学ぶ。そして、それぞれの「夢」を語り合える友人としてプロジェクトを推進していきます。日本人学生5名に対して2名程度のインドネシア人がパートナーとして参加してくれますが、日本語を学ぶ学生ですので、語学の心配はありません。



## (1) 全体概要

インドネシアは世界第4位、2億6635万人の人口を持ち、平均年齢も27.8歳と若い。

2007年から一貫して4～6%の経済成長を遂げており、今後も経済成長が見込まれている。一方で人口の90%がムスリムであるイスラム圏であり、ビジネスの参入障壁は高い。

そのような中、インドネシアに就航して57年が経つ日本航空株式会社様（以下、「JAL」という。）から、「インドネシアで一番愛されるための航空会社になるための次なる一手を提案せよ」という課題が課せられた。

学生は5チームに分かれ、提言賞を競う。3カ月以上に渡る渡航前期間ではSNS等を通じて、現地のニーズを探り、様々な方向性から仮説を立てる。現地ではインドネシア大学の学生と合流し、インドネシア大学、ショッピングモール内での対人アンケート調査を行い、最終的にはアジア・オセアニア地区支配人を含むJAL社員様10名に対して、最終提言プレゼンテーションを行う。

## (2) 事前学習について

4度の事前学習の中では、新サービス提案、新規ビジネス提案、および現地でのリサーチ方法などについての各チームのプレゼンテーションを、中継にて現地のJAL社員様に対して行う。その場で頂けるフィードバック及びメールでの質問セッションなどを通じて、学生たちは提案を都度修正していく。事前学習の日以外にも、何度もチームで集まり議論を重ねる。

また、段階に合わせて、インドネシア・イスラムの文化・経済やマーケティングの基礎知識などの講座のほか、チームビルディングのためのワークなどを行う。

## (3) 現地調査について

学生たちは、ショッピングモール内、インドネシア大学のキャンパス内において、対人アンケート調査を行う。渡航前に立てていた仮説が土壇場で覆されることもあり、学生たちはそのたびに提案の方向性や調査内容を修正していく。

## (4) その他のプログラム

上記のインターンシップに加え、現地では社会人との接点を持つ次のプログラムを実施。

- ・現地OBORG組織「紫紺の集い・ジャカルタ会」との交流会
- ・インドネシアで働くビジネスパーソンによる「キャリアフォーラム」

## ■スケジュール

- (1) 事前学習 1    2019年6月9日（日）  
チームビルディング、インドネシア・イスラム文化・経済理解、  
マーケティング基礎知識理解、企業説明  
※日本航空ジャカルタ支店より2名来日、Skypeでインドネシアと中継
  
- (2) 事前学習 2    2019年7月6日（土）  
「市場調査&マーケティング案(ベース)&リサーチ案（概要）」  
プレゼンテーション⇒フィードバック，チーム内で他己分析  
※Skypeでインドネシアと中継
  
- (3) 事前学習 3    2019年8月6日（火）  
マーケティング仮説／リサーチ戦略（詳細）企画書 進捗報告
  
- (4) 事前学習 4    2019年8月24日（土）  
渡航前最終プレゼンテーション⇒フィードバック  
※Skypeでインドネシアと中継
  
- (5) 現地            2019年9月12日（木）～19日（木）
  
- (6) 事後学習        2019年10月5日（土） 振返り講座

■参加学生（明治大学） 25名

【内訳】法学部2名・商学部5名・政治経済学部5名・文学部2名・  
理工学部1名・経営学部3名・情報コミュニケーション学部3名・  
国際日本学部4名

【学年別内訳】1年生2名・2年生6名・3年生17名

【男女別内訳】男性13名・女性12名

■参加学生（インドネシア大学） 10名

【内訳】英語学科5名・日本学科5名

■協力企業 日本航空株式会社

# 『勝利するのは1チーム！ ビジネス目線のリアルな勝負』

明大生5チームによる、現地責任者への最優秀提案をかけた本気の勝負。国内での3か月超の準備期間のすべてを、現地での1週間のリサーチ及びプレゼンテーションに注ぎ込みます。それでも、“**勝つのは1チームだけ**”。結果にこだわるビジネスマインドを体感します。

“勝ち負け”にこだわるコンセプトに共感した明大生25名が、ひと夏をかけて挑みました。

# 『イスラム文化で愛される航空会社 とは!?! 難題に挑む明大生』

勝負の舞台は、日本人とはまったく価値観が異なる、  
東南アジアのイスラム圏。  
大人でも舌を巻くこの企画。

経済、文化、宗教、なにもかも異なる環境の中で、明大生  
たちは異文化を理解すること、その中で勝負する難しさややりが  
いを体感しました。

## 9月12日(木) / 出発、到着後オリエンテーション

時間	行程
11:05	インドネシア(ジャカルタ)へ向けてフライト
20:00~20:50	ホテル到着後オリエンテーション、個人としての目標設定



【ジャカルタ到着後】



【オリエンテーションの様様】

## 9月13日(金) / スカルノハッタ国際空港見学、大学間交流セミナー

時間	行程
9:00~11:00	スカルノハッタ国際空港見学およびJAL空港事務所見学
14:30~18:00	インドネシア大学と明治大学の大学間交流セミナー ・各大学のスタッフより、記念品交換及び挨拶 ・各大学の学生より、大学紹介プレゼンテーション ・各チームにて、プレゼン内容の共有及びアンケートをインドネシア語に翻訳するなどのリサーチ活動準備



【スカルノハッタ国際空港見学】



【大学紹介プレゼンテーションの様様】

## 9月14日(土) / キャリアフォーラム、ショッピングモール訪問、OBOG交流会

時間	行程
9:00~13:00	現地企業にて働く若手ビジネスパーソンとのディスカッション (ビジネスパーソン5名が各テーブルに分かれ、順々に回る)
14:00~15:20	ショッピングモールにて、現地社長より現地でのグローバル戦略や課題等についての講演を拝聴
15:20~16:00	各チームにて、モール内視察
18:30~	明治大学OBOG (紫紺の集い・ジャカルタ会) 交流会



【若手ビジネスパーソンとの交流】



【現地OBOG交流会での記念撮影】

## 9月15日(日) / リサーチ1日目 @ショッピングモール

時間	行程
10:30~16:30	各チームでのモール内でリサーチ活動。 適宜会議室に集合し、各チームの状況の共有及び収集したデータの整理。リサーチ方法や最終提言に向けた方向性について、インドネシア大学生と議論を重ねながら、方向性を見出していく。
19:00~	翌日の戦略について各チーム議論



【お揃いのTシャツを準備するチーム】



【対話形式のアンケートで情報収集】

### リサーチ1日目を終えて

最初は照れがあり、なかなか声を掛けられなかった学生も徐々に慣れていき、次第に一人でリサーチに行く学生も現れる。質問項目が多すぎてサンプル数が伸びないチーム、手分けして多くのサンプル数を集められるチームが出る等差が出始めた。午後になると日曜のため、徐々に来店者が増え、親日家が多いということもあって、浴衣や法被を着ている学生に興味を持つお客さんも多く、スムーズにリサーチ活動を終えられた。

## 9月16日(月) / リサーチ2日目 @インドネシア大学

時 間	行 程
10:30~16:30	各チームでの大学キャンパス内でリサーチ活動。 適宜会議室に集合し、各チームの状況の共有及び収集したデータの整理。サンプル数を獲得したチームは早めにリサーチを終え、翌日の最終提言準備に入る。
19:00~	最終提言に向けて各チーム議論



【日尼学生協働でリサーチ最終日に臨む】



【前日より緊張感なくリサーチへ】

### リサーチ2日目を終えて

1日目のショッピングモールと違い、大学のキャンパス内で同年代ということもあり、積極的にリサーチ活動を行う各チーム。日本でいうところの東大クラスの大学だが、学生達も非常にフレンドリーで、和気あいあいした中でリサーチ活動を行っていた。また、同じチームのインドネシア大学生との意気も合い始めたことで、チーム内での役割分担も明確になり、明日の最終プレゼンへ向け最後のラストスパートを図る。

## 9月17日(火) / 最終プレゼンテーション @インドネシア大学

時 間	行 程
10:00~13:00	会議室にて最終準備
13:30~15:15	各チームによる最終プレゼンテーション
15:15~15:45	JAL社員様10名による審議
15:45~16:30	修了式 アジア・オセアニア地区支配人より、提言賞(最優秀賞)を発表。副賞として、インドネシア大学のメンバーも含め最も連携が取れていたチームにチームワーク賞を発表。
18:30~20:00	ジャカルタ市内にてJAL社員様、インドネシア大学生とプレゼンテーションのフィードバックも兼ねた懇親会



【真剣に発表する学生達】



【会場には日本語学科の学生も多数見学に】

## 9月18日(水) / 振り返り講座、市内自由視察

時 間	行 程
9:00~10:30	振り返り講座 現地入りして、初日立てた自身の「意気込み宣言」を振り返り、出来たこと、出来なかったことを理由と共に洗い出し、グループ内で発表することで共有。
11:00~16:45	インドネシア大学のメンバーと合流し、各チームにて市内自由視察
21:55	日本へ向けてフライト (9/19 早到着)



【振り返り講座の様子】



【アジア最大のイスティクル・モスクにて】

10月5日（土）13時－17時／事後学習 @明治大学

【“自分を知るきっかけ”と“企業を知るきっかけ”の提供】

メーカー企業の人事担当者の協力により、企業はこんな目線で皆さんのES／面接を見ているということを伝えたくて、個々の経験の振り返りの自己分析に活かす。自分を知るきっかけとすることで、自分×企業分析を掛け合わせて自分なりの「働く」を考えるきっかけとする。

また、目的を持って企業の話聞くことで、「何となく聞く」以上の気付きがあることを理解してもらう。学生の認知する企業の姿と実際の企業の姿は大きく違うことを事例に基づき説明し、今後の個々の視野を広げるための気付きを促す。

【“チームワーク”をテーマにした振り返り】

グループの中での個々の立ち位置、チームで協働したときの自分自身の強み・弱みを自分で認識すると共に、自分自身で気付いていない強み・弱みをチームメイトから指摘してもらう。4カ月間苦楽を共にしてきた仲間だからこそ伝えられることを忌憚なく伝えさせ、各人はチームメイトからもらったアドバイスを基に自己評価と他者評価のGAPから見えてきたことを今後の課題とし、チームで活動する時のNEXTチャレンジを宣言させる。

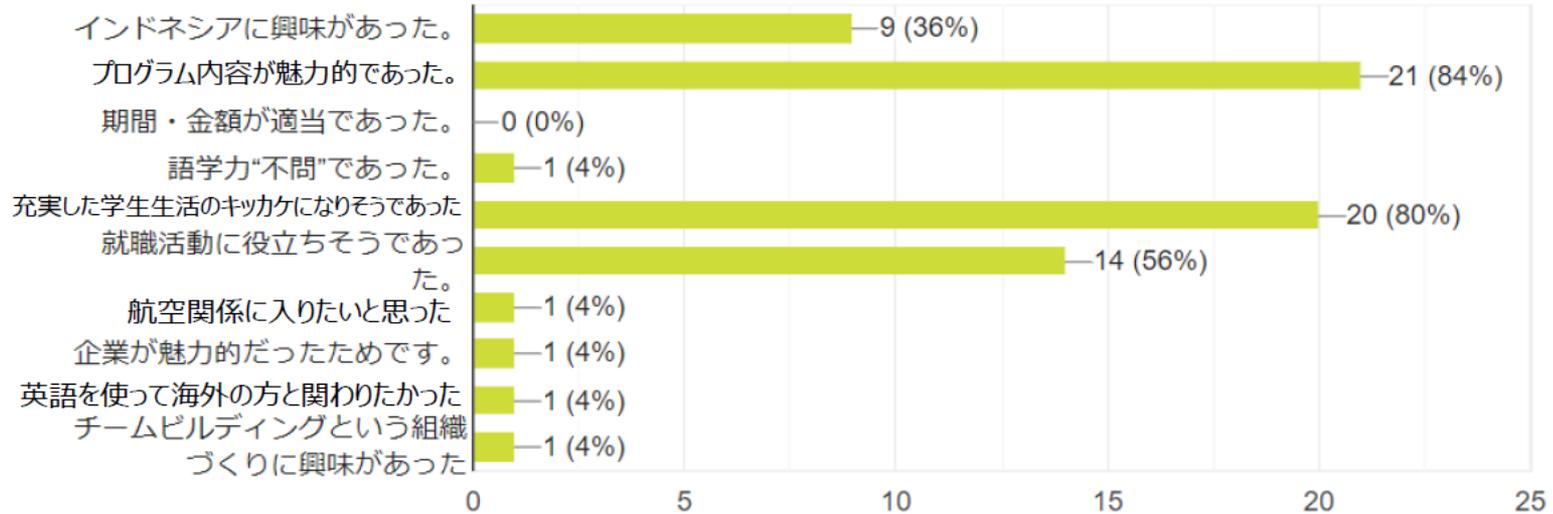
4か月前のチーム初顔合わせの時は余所余所しかった面々も、最終的にはどのチームもそれぞれの個性を活かした良いチームになったと感じる。

ただし、チームビルディングを早期から出来たチームと、最後の最後で出来たチームとでは進め方の違いが顕著であった。一人では成し遂げられない目的や目標に対して、同じ目線や意識で取り組むことは容易なことではないが、如何にその点に早く到達することができるかも重要だということ各々が体現する機会となった。また、仲良しだけが良いチームという訳ではなく、お互いの議論を本気でぶつけ合うことでより良いアイデアの創出ができることを学んだチームもあった。

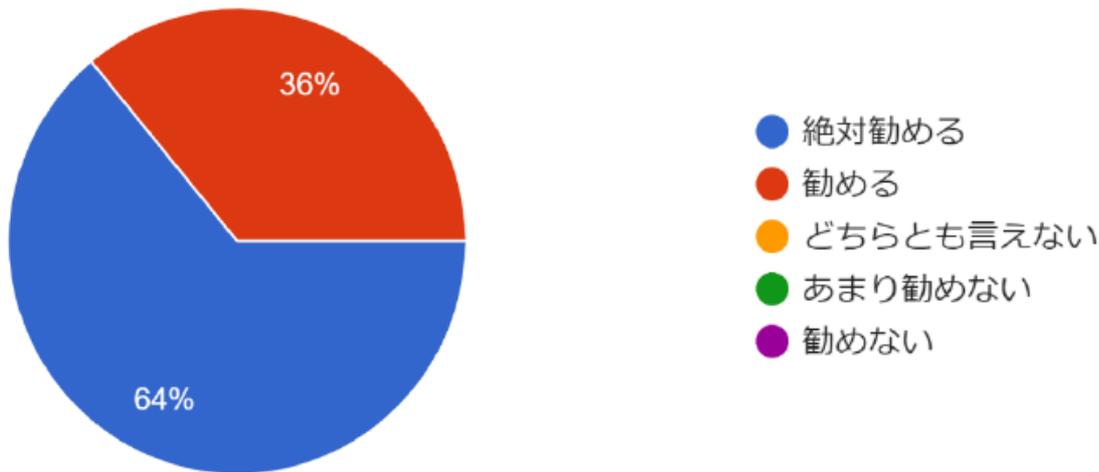
その他でも、リーダータイプでない学生がチームのリーダーを務めることで自分自身の新たな能力の発見があれば、英語ができない＝海外勤務を視野に入れなかった学生が、喋れないなりにリサーチ活動を全う出来たことで「海外で働くこと」を視野に考え直すこともあり、現地で働くビジネスパーソンやOBOGとの意見交換が学生達の新たな価値観の醸成の手助けになったと感じる。1年～3年生全員の学生が、今後の学生生活を送るうえでの明確な目標を立て、それに取り組み始めていることも更なる成長を期待できる。

最後にプログラムを通して、JAL社員様のホスピタリティ精神には感銘を受けることが多く、学生達からも人が望んでいる以上のことを自然にできるような人になりたいという発言も多く聞かれ、想定していた成果と別の成果もあり、大変有意義な結果となった。

## 本プログラムに参加した理由を聞かせてください（複数選択可）



## このプログラムを、友人・後輩に勧めますか



## 友人・後輩に薦めるその理由を教えてください。

チームワーク、やりきった達成感、これからの自分の展望を知ることができるから。

社会人として必要なスキルを身につけるきっかけとなるから。

楽しかったことも辛かったことも、自分の今後の人生のプラスになると思ったから。

日本では経験できないことが経験でき、海外は自分には向いていないと思っている人の考え方が変わるから。

主体的に考え動けば成長に繋がるから。

インターンシップが終わった後の充実感が半端ないし、自分から参加してきた人たちなので、意識や能力が高い人たちと出会えるため。

心を動かす経験ができたから。

参加するか迷ったが、参加して結果的に良かったことばかりだから。

自分が成長でき、参加して何も悔いが残ってないから。

自分のスキルアップや将来に繋がるのはもちろん、学生生活においてチームでこんなに自発的に真剣に取り組む経験はとても貴重で、今後の人生の財産になると思うから。

こんなにも刺激をたくさん受けて、チームと協力しながら、様々な方のお話を聞ける機会はなかなか体験できないと感じたから。

自分の人生の選択をする場面での選択肢が増える。自分の知っている世界を拡げることができるから。

大学生だからこそ、仕事で行くわけではないからこそ、得られることがあって、さらにそれは社会人になってからも生きてくることだから。

海外に興味ある人、ない人、将来の夢がはっきりしている人、していない人、どんな人が参加しても、大きく成長できるはずだから。

やりきった後の達成感が素晴らしい。負けても勝ってもここまでやり切れたことは自信に繋がり、今後絶対に生きてくると思います。ただ、グループの集まりもたくさん有り、時間は根気がないと疲弊してしまう気もするので、その2つがある方に勧めたいです。

今回のインターンシップを通して学べることや得られることが、自分が思っていたよりも膨大であった。チームとして協力する力を向上させることができた。

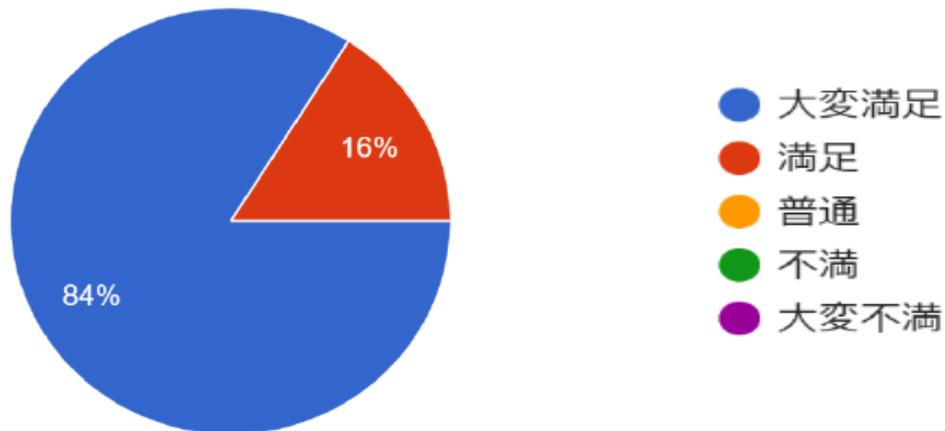
自分が今までで一番力を注いだと言えるくらいの経験が出来たから。

出会える仲間だったり、経験だったり参加しないと得られないし、それが得られる環境だと自信を持って言えるから。

普通ではなかなかできないような現地の方へのマーケティング調査やインドネシア学生との交流もあるから。

人と人との繋がりを実感できる。国籍を超えた人のあたたかさに触れることができる。ミッションを達成するという1つの目標に向かって全力で取り組む経験は何にも変えられない貴重な物だから。

## プログラムを通しての満足度



## 気付き・発見したこと・感想を自由に記入してください。

グループで協働することの大変さを感じつつ、達成できた時の喜びの大きさを感じました。また具体的な将来への夢を持った意識の高い同世代と切磋琢磨できたことが、本当に貴重な経験だったと思っています。

普段話せない社会人の方の話を聞くことができ貴重な経験となった。

自分に足りないもの、自分にでも出来ることが今回のプログラムを通じて理解することができました。英語もパワポもできない中、JAL様という素晴らしい企業のインターンシップに参加させていただき本当に有難うございました。

ハードスケジュールで厳しかったが、その分あつという間に過ぎ、充実な時間だった。

協調性や柔軟な考え方を持って寛容になることが大切だとプログラムを通して学べたと思います。

学生生活の中で一番頑張った経験にもなりましたし、今まで知らなかった自分を見つけたきっかけにもなりました。

## 気付き・発見したこと・感想を自由に記入してください。

海外で働くことを視野に入れることができた貴重な経験でした。協調性やプレゼンも大事でしたが、それを通して自分がどういう人間なのか見つめなおす機会にもなりました。一生の財産になると思います。

海外で様々な個性を持った人との活動を通して、自分の視野が広がり、足りないところがたくさん見つけて、社会に出るうえで必要なことにも気付けたから。本当に毎日が充実していて楽しかったです。

とても良い経験が自分にとって出来て、成長する機会を与えてくれた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

たくさんの大人の人達が、大学生の私たちのためにここまで本気でやってくれたことにとても感動した。

普段関われない多くの人と関わることが出来て、自分も知らない自分を知ることが出来て、チームでの成功や失敗の経験ができて、全てが貴重な経験のプログラムでした。

自分には出来ないと思っていたことをやるのは今からでも遅くないと気付きました。諦める前に行動することが大切であると思いました。今後、簡単な課題と難しい課題があれば難しい課題の方を迷わず選びたいです。その方が絶対終わった後に糧になると思いました。また、キャリアフォーラムやOBOG会、このプログラムに共に参加した先輩方とお話出来て、夢を持つこと、志を高く持つことはとても素晴らしいことだと改めて気付きました。

今まで自分のやれる範囲を見限って気付かないうちに妥協をしていたけれど、やらなければならない環境でやる気があれば自分の可能性が大きく広がることに気付くことができました。

連日のハードスケジュールでしたが、その分充実した1週間を送ることが出来ました。

厳しいスケジュールの中、辛いこともあったがやりきったこの経験は、一生の財産になった。ここまで関わってくれた人に感謝したい。

このプログラムを通して、自分の考えを伝えることの難しさ、マーケティング戦略の難しさを身をもって感じる事ができた。自分たちのチームだけではなく、国籍を超えたコミュニケーションの大切さを知った。人と人の繋がりを実感できたプログラムだった。

企業の偉い立場の方の前で発表するという経験ができて、人前で発表するのが苦手な自分と向き合い、最後までやり遂げる達成感を味わえた。自分にとって非日常で、大きく成長するきっかけとなったプログラムだった。

ご高覧いただき有難うございました。